

<福島県知事賞>

## 私たちを守る税金

棚倉町立棚倉中学校

3年 佐川 晃介

今年7月中旬、西日本を中心に襲った「平成30年7月豪雨」は、多くの死者と想像を超える大きな被害をもたらした。毎日のようにテレビや新聞などで、避難生活を送っている人や住宅の土砂の除去・復旧を行っている人の姿を見た。また、作業もできずに、自治体やボランティア等の助けを待っているしかないお年寄りの方も多くいると聞いた。被災当時はどうなにか怖く、今はどうなにか悔しく、切ないことだと思う。

毎年のように日本では、地震や大規模な台風、集中豪雨による被害がどこかで起きている。私たちの住む福島県も7年前の東日本大震災や原発事故で大きな被害を受け、今も復興の途中だ。地震、台風、豪雨など、どんなに予測が当たったとしてもそれを止めることはできない。私たちができることは、身を守り被害を最小に食い止めるための準備をすることだろう。そして、被害が起きてしまった後の復旧を早く進めることだ。復旧を早くすることで、人々の安心と普段どおりの生活を取り戻すことができる。国や県、私たちの住む町では、災害から身を守ったり被害を食い止めたり、災害が起きた時の復旧作業などに多くの税金が使われている。例えば、災害時の緊急情報、町の防災無線、警察、消防、自衛隊の活動、自治体からの要請による土木業者等の作業など、これら全てに税金が使われているということを父に教わった。多分数えきれないほどの金額だが、人の命や安全には代えられないものだから絶対に必要なものだ。私たちは、いつも税金に守られ、安心をもらい生きていると言える。恐ろしい

災害に対応するために色々なことを学び備えなければならない。「もし税金が無かったら」と考えると、こわれた道路や被害にあった住宅、土砂に襲われた町など、どうなるのだろう、恐ろしいことになるに違いない。

だからそれに対応するために、私たちは税金を納める義務がある。お互い助け合うためにも大切なものだ。災害だけではない。学校や医療も、私たちが生きていくためになくてはならないことがたくさんある。大人になった時に、もっと理解できると思うが、「税金」の大切さをいつも心にとめて生きていきたいと思う。